時沢西高田遺跡

―宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書―

2004

群馬県勢多郡富士見村教育委員会
富士見村遺跡調査会

時沢西高田遺跡全景（南から）

1号遺構　出土遺物（内面）

1号遺物　出土遺物（外面）

序

富士見村は上毛三山の一峰である赤城山の南面に位置し、豊かな自然とともに文化財の宝庫として知られています。富士見村東南部の時沢地区もその例にもれず、数多くの遺跡に恵まれています。

ここ数年は前橋市の北に隣接する地理的要因から宅地造成などの民間の開発が増えています。今回の時沢西高田遺跡発掘調査も宅地造成に伴って行われたものです。遺跡の所在する時沢地区は遺物が濃密に散布しており、古代におけるこの地の繁栄を物語っています。

発掘調査では、古代の庇を持つ掘立柱建物跡や竪穴住居跡、溜井が検出されました。富士見村で初めて検出された溜井は、水田開発が行われていたことを物語っています。また、溜井からは「縦」の字が墨書された土器が出土しました。永遠に水が湧き続け、繁栄することを祈ったのでしょうか。古代の人々が水に対して特別の感情を抱いていたことが窺えます。貴重な遺構と遺物が出土し、大きな成果を挙げることができました。

最後に、発掘調査にご協力いただいた方々、調査をご指導していただいた方々、さらに、厳しい自然条件の中で発掘作業に従事していただいた作業員の皆様に心より感謝申し上げ序といたします。

平成16年３月

富士見村教育委員会

教育長　浅　井　多津男

例　　言

1．本書は民間開発に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書である。

2．本遺跡は群馬県勢多郡富士見村大字時沢字西高田114番１外に所在する。

3．現地調査期間は平成10年８月20日から平成10年10月12日までである。

4．発掘調査は富士見村遺跡調査会、整理調査は富士見村教育委員会が行った。組織は次のとおりである。

富士見村遺跡調査会（平成10年度）		富士見村教育委員会（平成15年度）	
会　　長	浅井多津男	教　育　長	浅井多津男
副 会 長	品川良治	教 育 次 長	長谷川功
理　　事	高山登志男	事 務 局 次 長	樺澤元治
監　　事	柳井久雄	社会教育係長	小渕博文
事務局員	羽鳥政彦	社会教育係主事	福田貫之
	大友俊美		

5．遺構写真は羽鳥、遺物写真は福田が撮影した。また、本書の編集・執筆は羽鳥の指導のもと福田が行った。

6．出土遺物及び図面等は富士見村教育委員会で保管している。

7．本書の作成にあたり以下の諸機関並びに諸氏にご教示、ご協力を賜った。記して感謝したい。

群馬県教育委員会文化財保護課　㈱群馬県埋蔵文化財調査事業団　勢多郡町村教委事務研究会社会教育部会文化財分会の諸氏

梅澤克典　小川卓也　小林　修　齋藤幸男　櫻井和哉　大工原豊　角田真也　長谷川福次　右島和夫　水谷貴之　山口逸弘　山下歳信

8．発掘調査・整理調査は以下の方々が参加した。

石関ミツ江　小見明美　木暮ちり子　(故)木村利男　関口照子　高橋アヤ子　奈良美江　船津あや子　船津かほる　本望充子

凡　　例

1．本書で使用した地図は国土地理院発行１：50000地形図「前橋」、富士見村役場発行１:2500原形図を用いている。

2．遺構図中の断面基準線高は標高を表し、遺構図中の方位は座標北を示している。

3．遺構図の縮尺については、下記を基本とした。各挿図中のスケールを参照していただきたい。

全体図１/200　竪穴住居跡１/60　掘立柱建物跡１/60・１/80　柱穴群１/60　溝跡１/60・１/80　溜井遺構１/60

4．遺物図は下記縮尺で掲載した。それぞれ図中のスケールも参照していただきたい。

坏・椀類１/３　甕１/４

5．竪穴住居跡等の遺構計測値は長軸・短軸は上端を測った。また、面積については下端をデジタルプラニメーターで３回計測した平均値を記載した。

目　次

序　文
例　言
凡　例
第１章　調査に至る経緯と調査の経過……1
第２章　遺跡の位置と周辺の環境……2
　第１節　遺跡の位置……2
　第２節　周辺の遺跡……2
第３章　調査の方法と基本層序……5
　第１節　調査の方法……5
　第２節　基本層序……5
第４章　検出された遺構と遺物……9
第５章　成果と課題……29

挿図目次

第１図　時沢西高田遺跡周辺の地形……1
第２図　時沢西高田遺跡と周辺の地形……3
第３図　時沢西高田遺跡基本層序……5
第４図　時沢西高田遺跡全体図……6
第５図　１号竪穴住居跡及び出土遺物……9
第６図　２号竪穴住居跡……10
第７図　２号竪穴住居跡出土遺物……11
第８図　３Ａ号竪穴住居跡……12
第９図　３Ａ号竪穴住居跡出土遺物……13
第10図　３Ｂ号竪穴住居跡……14
第11図　３Ｃ・３Ｄ号竪穴住居跡……15
第12図　４号竪穴住居跡及び出土遺物……16
第13図　５号竪穴住居跡及び出土遺物……17
第14図　６号竪穴住居跡及び出土遺物……18
第15図　７号竪穴住居跡……19
第16図　８号竪穴住居跡……19
第17図　１号掘立柱建物跡周辺柱穴……20
第18図　１Ａ号掘立柱建物跡……21
第19図　１Ｂ号掘立柱建物跡……22
第20図　２号掘立柱建物跡……22
第21図　３号掘立柱建物跡……23
第22図　４号掘立柱建物跡……23
第23図　北端柱穴群……24
第24図　３号竪穴住居跡東側柱穴群……24
第25図　１号溝跡及び出土遺物……25
第26図　２号溝跡……26
第27図　１号遺構……27
第28図　１号遺構出土遺物……28

第１章　調査に至る経緯と調査の経過

平成10年２月、事業主である㈱サンエイより、群馬県勢多郡富士見村大字時沢字西高田地内における共同住宅及び分譲住宅用地の開発に係わる事業計画が富士見村教育委員会に掲示され、埋蔵文化財の有無ならびにその取扱いについて照会があった。この照会を受けて当教育委員会は、開発地は周知の遺跡である西組屋谷戸遺跡の近辺であり、また、土器の散布が確認されるため工事着工前に試掘調査を行い遺構の分布状況を把握し、包蔵状況に応じた工事計画ならびに保存計画をたてる必要があるとの回答をした。これを受けて同年２月に事業主より試掘調査依頼書が提出され、同年４月に富士見村教育委員会が試掘調査を実施した。試掘調査は遺構の有無ならびに遺構検出面の確認を主目的に、対象地内の地形に合わせて９本のトレンチを設定した。その結果、すべてのトレンチから竪穴住居や柱穴、溝が検出された。

試掘調査の結果をもとに、事業主に現地保存を要請したが開発の意志が堅いため、開発を行う際には工事に先立ち発掘調査を行い記録保存の措置を執る必要がある旨を説明した。その後、事業主と発掘調査実施期日、発掘調査費用等について数次の協議を行った結果、調査を行い記録保存の措置をとることで合意を得た。平成10年８月18日付けで　事業者　松村清、事業主　㈱サンエイ　代表取締役　㈱持元勝と富士見村教育委員会が組織する富士見村遺跡調査会　会長　浅井多津男との間で「埋蔵文化財発掘調査委託契約書」が締結され、同年８月20日より発掘調査を実施することとなった。

発掘調査期間中は台風のシーズンであり、度々豪雨にみまわれ調査区が水没するなど調査に支障をきたしたが、平成10年10月12日に現地での調査を終了した。

第１図　時沢西高田遺跡周辺の地形

第２章　遺跡の位置と周辺の環境

第１節　遺跡の位置

時沢西高田遺跡が所在する富士見村は、群馬県の県庁所在地である前橋市の北側に接し、上毛三山の一峯である赤城山の南西麓から山頂まで東西約６km、南北約19kmを村域とする狭長な村である。標高は赤城火山の外輪山の一つである黒檜山山頂（1,827m）を最高点として急傾斜をもって南下する。標高約450m付近を傾斜変換点として傾斜が緩やかになり、前橋市と接する大字原之郷付近で標高150m程となる。

標高約450m付近の傾斜変換点を境として北東の山岳部と南西の裾野部に大別される。さらに裾野部は東方の扇状地形（白川扇状地）と西方の比較的開析谷の発達した丘陵状地形とに区分できる。時沢西高田遺跡は白川扇状地に立地し、竜ノ口川により形成された左岸の台地上に占地する。

第２節　周辺の遺跡

本村では、昭和29年に刊行された『富士見村誌』編纂事業に伴う尾崎喜左雄博士（群馬大学史学研究室）による石室の測量、さらに群馬県遺跡台帳作製に伴う分布調査が行われてきた。そして昭和58年度に行われた土地改良事業に伴う田中田遺跡発掘調査を皮切りに、村内遺跡発掘調査事業が始まり現在までに多くの遺跡が発見・調査されている。ここではこれらの資料とこれまでの発掘調査をふまえ、時沢西高田遺跡（１）周辺の遺跡について概観してみたい。

【旧石器時代】

標高約300m前後に位置する小原目遺跡（２）から剥片が、標高約350m前後の小暮東新山遺跡（３）から槍先形尖頭器の製作工程で出ると考えられている剥片と全国的に類例の少ない住居状遺構が確認されている。また、標高約130m前後に位置している前橋市鳥取福蔵寺Ⅱ遺跡（４）からは剥片や礫器の他に細石器、石刃が出土している。

【縄文時代】

標高約450m付近の傾斜変換点を境とする裾野部の台地上を中心に分布し、数多くの遺跡が存在する。時期的には前期と中期は遺跡数が多いが、草創期から早期、後期から晩期にかけては遺跡数が少ない傾向にある。

早期の代表的な遺跡として坂上遺跡（５）が挙げられる。坂上遺跡からは押型文土器、撚糸文系土器、鵜ケ島台式の条痕文系土器が確認されている。また、少量ではあるが、田中遺跡（６）、久保田遺跡（７）からも条痕文系土器が出土している。前期前葉の二ツ木式期では田中遺跡、久保田遺跡が代表的な遺跡である。ついで関山式期には田中田遺跡（８）、黒浜、有尾式期には由森遺跡（９）があり、住居址が確認されている。諸磯期には数多くの遺跡が発見されている。諸磯ａ式期には白川遺跡(10)、寺間遺跡(11)が、諸磯ｂ式期では愛宕山遺跡(12)、上百駄山遺跡(13)、向吹張遺跡(14)、広面遺跡(15)で住居址が確認されている。このうち愛宕山遺跡は土器の質・量ともに豊富であり、該期の貴重な資料が出土している。諸磯ｃ式期では広面遺跡が著名であり、諸磯ｂ式からｃ式への変遷を考える上で、貴重な資料が出土している。また、陣場・庄司原遺

第２図　時沢西高田遺跡と周辺の地形

跡群(16)からも土器の出土が見られる。中期の代表的な遺跡としては、中期中葉の見眼遺跡(17)、向吹張遺跡、中期中葉から後葉にかけての旭久保C遺跡(18)、中期後葉の陣場遺跡が挙げられる。見眼遺跡J－1号住居跡からは勝坂式と「焼町類型」、向吹張遺跡J－8A号住居からは「焼町類型」と「三原田類型」、加曽利EI式並行の土器等が共伴関係として出土し、赤城南麓地域の土器組成を考える上で貴重な資料といえよう。旭久保C遺跡も土坑から「焼町類型」と勝坂式の良好な共伴関係が得られている。陣場・庄司原遺跡群からは加曽利E式期の集落が検出されている。後期の代表的な遺跡として称名寺式基の敷石住居跡が検出された陣場遺跡が挙げられるが、村内において遺跡数は減少する。

【弥生時代】

田中田遺跡から中期前半、後期後半の土器片が検出されたのみであり、希薄である。

【古墳時代】

村誌では約90基に及ぶ古墳の存在が報告されているが、現在では耕作に伴い削平されたものが多い。古墳は白川沿いの大字時沢・大字小沢、前橋市に接する大字原之郷・大字横室、北橘村に接する大字米野・大字山口に多く分布している。確認された古墳のうち、陣場・庄司原遺跡群においては古墳時代前期に帰属する方形周溝墓5基が検出された。九十九山古墳(19)は全長約60mを測る勢多郡内で最大の前方後円墳である。石室は全長約8.50mの自然石乱石積の無袖型横穴式石室であり、勢多郡内における横穴式石室の導入期の古墳である。また、陣場・庄司原遺跡群の上庄司原4号墳室は截石切組積の両袖型横穴式石室であり、石材には水磨きや朱線が施されているのが調査時に散見された。上庄司原2号墳は榛名山二ツ岳噴出の角閃石安山岩を用いた削石互目積の両袖型横穴式石室である。石室構築後、殆ど時間をおかずに左壁が崩れ、天井石が崩落したためか未盗掘であり、子持ち勾玉や馬具、直刀など良好な一括資料が検出されている。

集落としては、田中田遺跡が挙げられ、前期から後期までほぼ間断なく継続する大きな集落と推測される。大字原之郷に所在する旭久保遺跡(20)は中期から後期まで竪穴住居が検出されているが、後期になると飛躍的に住居数が増加している。また、坂上遺跡からは牧の可能性がある方形区画遺構が検出されており、注目を有する。

【奈良・平安時代】

古墳時代後期からの遺跡数増加が、さらに加速し遺跡数は飛躍的に増加する。集落の占地は古墳時代と異なり、縄文時代と同様に裾野部の台地上に占地する。多くの遺跡が調査されているが、旭久保遺跡、陣場・庄司原遺跡群から比較的まとまった集落が検出されている。このうち、陣場・庄司原遺跡群の竪穴住居からは鍛や紡錘車など豊富な鉄製品が出土している。また、時沢西高田遺跡や東耕屋谷戸遺跡(21)、組之木原遺跡(22)周辺には濃密に遺物が散布している。また、東方約2.5kmに位置する芳賀団地遺跡群(23)で大規模な集落跡が検出されている。

【中・近世】

既調査の館跡と思われる遺跡は約10遺跡を数えるが、大半がごく狭い範囲内の調査であり、館を囲繞する溝等が確認されるにとどまり、遺物の出土も少なく、詳細な構造や時期が判明している遺跡は少ない。このうち、上百駄山遺跡は面的に調査され、館内の構造が判明している。城跡には漆窪城跡(24)、田島城跡(25)、皆沢城跡(26)、丸山城跡(27)、森山城跡(28)、金山城跡(29)が知られている。

第３章　調査の方法と基本層序

第１節　調査の方法

調査は、まず重機を使用して表土除去を行い、その後ジョレンがけにより遺構検出・プランの確認につとめた。その後、調査区全体に国家座標Ⅸ系に準拠した５ｍ×５ｍのグリッドを設定し測量に際しての基準とした。なお、グリッド名は南北－東西で表し、南東杭の名称を使用した。

住居跡は基本的に土層観察用のベルトを十字に残し、床面・壁面の精査を行った。土坑・柱穴の大半は検出した平面のほぼ中央で半裁し、土層観察後全掘した。溝は適したところでベルトを設定し、掘り下げた。遺物は床面近くのもの、残りのよいものを優先して図面と写真で出土状況・出土位置を記録した後、取り上げた。

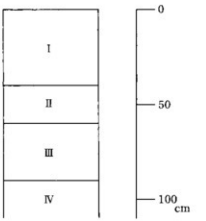
各遺構の土層断面図は基本的に１/20で作製した。遺構平面図・遺物分布図は１/20を基本として作製した。遺跡の全体図は１/100で作図した。

遺構・遺物出土の記録写真は35㎜の白黒・カラースライドの２種類のフィルムを用いて、調査の進捗に併せて随時撮影した。

第２節　基本層序

調査区南の６号住居跡と７号住居跡の土層観察図をもとに、作製した本遺跡の基本層序を第３図に示す。

Ⅰ層　表土
Ⅱ層　暗褐色土　浅間Ｂ軽石（1108年降灰）を含み、部分的に赤味がさす。
Ⅲ層　黒褐色土　浅間Ｃ軽石（４世紀初頭降灰）、Hr-Fp（６世紀中葉降灰）を含む。
Ⅳ層　黄褐色ローム層　ローム



第３図　時沢西高田遺跡基本層序

第４章　検出された遺構と遺物

(1)　竪穴住居

１号竪穴住居跡

【位置】調査区北西、12--16グリッドに位置する。

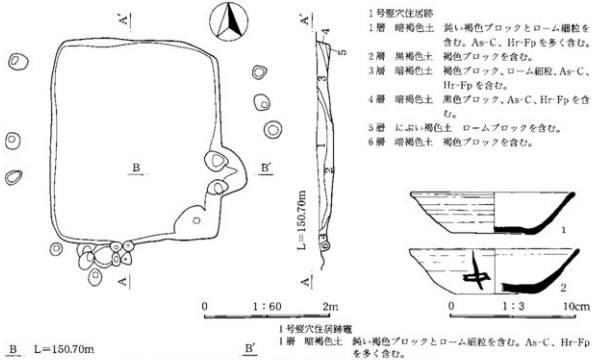
【形状・規模】平面形態は方形を呈し、東西約2.7m、南北約3.2m、床面積は7.3㎡である。

【床面・柱穴・貯蔵穴】確認面から約20cm下で床となる。竈前面は低くなり固く締まるが、他は軟弱である。壁周溝は不明瞭であり、確認されなかった。東壁と西壁の外側に、壁と並行するように３基ずつの柱穴が検出されており、本住居に伴う可能性がある。また、南壁に接するように２基の柱穴が３列検出された。住居入り口施設に伴うものであろうか。南東隅に、長径70cm、短径55cm、深さ27cmを測る貯蔵穴が付設されている。

【竈】東壁の南寄りに付設する。燃焼部は壁外に位置しており、焚口には石抜穴が検出されている。

【出土遺物】ほぼ床面レベルから須恵器坏が、また「中」と墨書された須恵器坏が貯蔵穴付近から出土している。

【所見】出土した遺物から、本住居跡は９世紀中葉に位置づけられる。



第５図　１号竪穴住居跡及び出土遺物

２号竪穴住居跡

【位置】調査区北西、11—15グリッドに位置する。

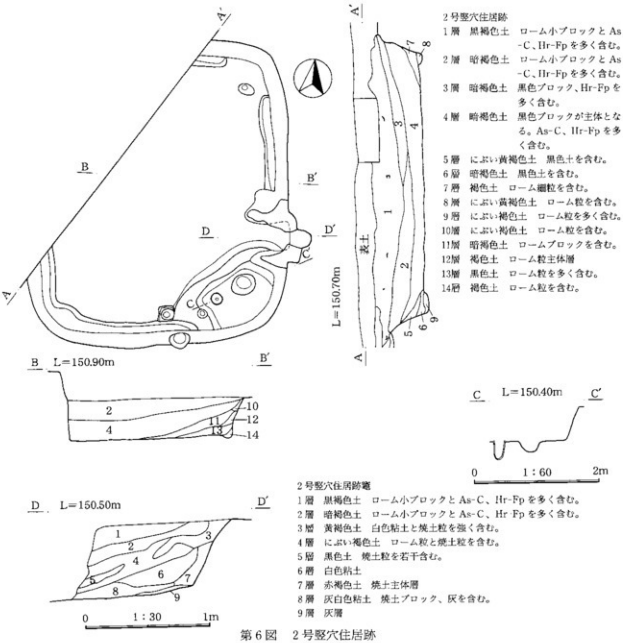
【形状・規模】平面形態は隅丸長方形を呈し、東西3.0m、南北5.0m、床面積は現状で11.2㎡である。

【床面・柱穴・貯蔵穴】確認面から約60cm下で床となる。床面は全体的に固く、特に竈前面から南壁よりは固く締まっている。貼り床は認められず、ローム地山を直に踏み固めたものと思われる。竈前面には、数枚の床面が確認された。浅く不明瞭な壁周溝が巡る。柱穴は確認されなかった。竈右袖から南壁にかけて住居の南東隅を隅丸方形状に区切るローム粘土の高まりが残存しており、貯蔵に関連した施設と思われる（土堤状遺構）。この区画内にはピットと埋甕が付設されている。土堤状遺構の下は床面となっており、居住途中に付設されたと推測される。壁面は一旦急角度で立ち上がり、中位から開き気味になる。

【竈】東壁の南寄りに付設されており、ローム粘土を用いた袖が残存する。

【出土遺物】土堤状遺構内の埋甕のほか、土師器坏や小型甕、須恵器坏が出土している。

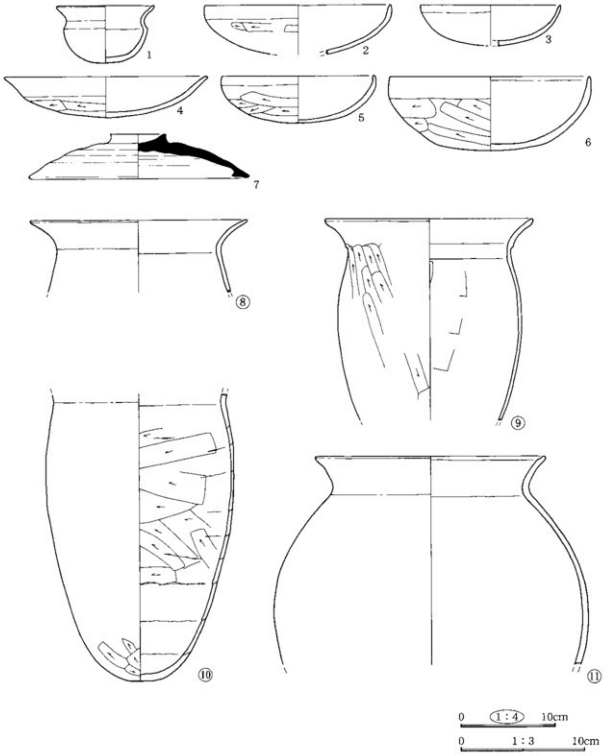
【所見】出土した遺物から、本住居跡は７世紀後半に位置づけられる。



2号竪穴住居跡
1層 黒褐色土 ローム小ブロックとAs-C、Hr-Fpを多く含む。
2層 暗褐色土 ローム小ブロックとAs-C、Hr-Fpを多く含む。
3層 暗褐色土 黒色ブロック、Hr-Fpを多く含む。
4層 暗褐色土 黒色ブロックが主体となる。As-C、Hr-Fpを多く含む。
5層 にぶい黄褐色土 黒色土を含む。
6層 暗褐色土 黒色土を含む。
7層 褐色土 ローム細粒を含む。
8層 にぶい黄褐色土 ローム粒を含む。
9層 にぶい褐色土 ローム粒を多く含む。
10層 にぶい褐色土 ローム粒を含む。
11層 暗褐色土 ロームブロックを含む。
12層 褐色土 ローム粒主体層
13層 黒色土 ローム粒を多く含む。
14層 褐色土 ローム粒を含む。

2号竪穴住居跡竈
1層 黒褐色土 ローム小ブロックとAs-C、Hr-Fpを多く含む。
2層 暗褐色土 ローム小ブロックとAs-C、Hr-Fpを多く含む。
3層 黄褐色土 白色粘土と焼土粒を強く含む。
4層 にぶい褐色土 ローム粒と焼土粒を含む。
5層 黒色土 焼土粒を若干含む。
6層 白色粘土
7層 赤褐色土 焼土主体層
8層 灰白色粘土 焼土ブロック、灰を含む。
9層 灰層

第６図　２号竪穴住居跡



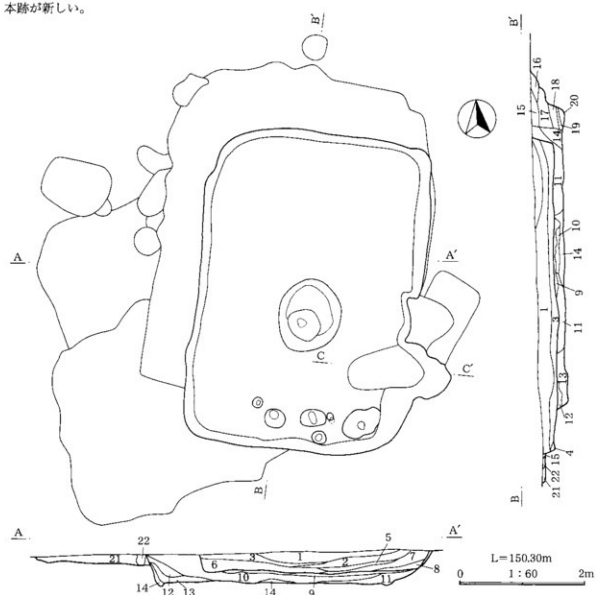
第7図　2号竪穴住居跡出土遺物

3号竪穴住居跡

【位置】調査区ほぼ中央、9―15グリッドから8―15グリッドにかけて位置する。2軒（A・B）が重複し、さらに西側に方形を呈する浅い掘り込み（C・D）が確認されたが、床面が検出されず、住居跡ではない可能性もある。

3 A号竪穴住居跡

3 B号竪穴住居跡と重複し、南東方向に僅かにずれた位置に構築されている。床面レベルでは約10cm高く、本跡が新しい。

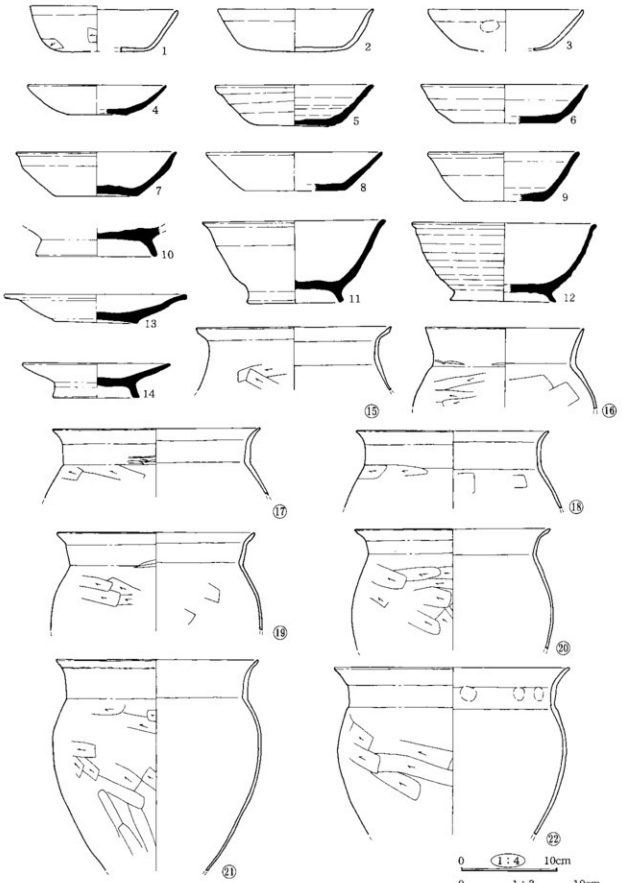


3 A号竪穴住居跡
1層 明褐色土 ロームブロックを含む。Au Cを多く含む。
2層 黒褐色土 ロームブロック、Au Cを含む。
3層 黒色土 ローム粒、Au Cを含む。
4層 暗褐色土 微量の酸化鉄とAs-Cを含む。
5層 明褐色土 暗褐色プロックとロームブロックを含む。
6層 黒色土 焼土粒、As-Cを含む。
7層 褐色土 ロームブロックと焼土プロックを含む。
8層 にぶい黄褐色土 焼土プロックを多く含む。
9層 黒褐色土 焼土粒、ローム粒を含む。硬く締まる。
10層 黒褐色土 黒色プロックとロームブロックを含む。As-C、Hr-Fpを含む。
11層 黒褐色土 ローム粒と焼土粒、黒色プロックを含む。Au C、Hr-Fpを含む。
12層 にぶい褐色土 ローム主体層。黒褐色プロックを含む。
13層 黒色土 ロームプロックと焼土粒を含む。
14層 明褐色土 ロームプロックを含む。
15層 黒褐色土 As-C、Hr-Fpを多く含む。
16層 暗褐色土 ローム粒を若干含む。
17層 暗褐色土 黒色土が斑状に堆積。As-Cを多く含む。
18層 褐色土 ローム粒を含む。硬く締まる。
19層 黒褐色土 白色軽石を含む。
20層 にぶい褐色土 ロームプロックを多く含む。
21層 にぶい黄褐色土 部分的に黒褐色土や暗褐色土が混入する。(掘り込みは明瞭でない)
22層 暗褐色土 ローム粒、黒色プロックを含む。

C L=150.30m C′

3 A号竪穴住居跡断面
1層 赤褐色土 焼土プロック主体層。部分的に黄白色粘土が混じる。
2層 灰褐色土 焼土粒を微量に含む。
3層 黄褐色土 焼土粒を含む。
4層 黄白色粘土主体層。焼土プロックを少量含む。
5層 黒褐色土 ローム粒と焼土粒を含む。
6層 焼土プロック主体層。
7層 床面

第8図 3 A号竪穴住居跡



第9図　3A号竪穴住居跡出土遺物

【形状・規模】平面形態は隅丸長方形を呈し、東西3.6m、南北約５m、床面積14.5㎡である。

【床面・柱穴・貯蔵穴】確認面から約35㎝下で床面となる。床は３Ｂ号竪穴住居跡の覆土床面としているため全体的に軟弱であるが、竈前面は固く、複数の床面が確認された。貯蔵穴、柱穴、壁周溝は検出されなかった。

【竈】東壁の南寄りに付設されており、ローム粘土で補強されていたと思われるが大半は崩れて残存しない。燃焼部は壁の内外にかかる。

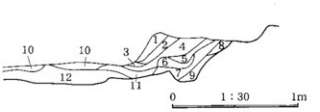
【出土遺物】土師器坏、甕、須恵器高台椀、蓋が出土している。

【所見】出土した遺物から、本住居跡は９世紀前半に位置づけられる。

３Ｂ号竪穴住居跡

３Ａ号竪穴住居跡の攪乱を激しく受けている。
また、西壁には柱穴が重複する。

３Ｂ号竪穴住居跡竈
1層　黄褐色土　ローム主体層。Hr Fp を含む。
2層　褐色土　焼土ブロックを多く含む。
3層　青灰層　焼土粒を含む。
4層　にぶい黄褐色　焼土ブロックを含む。
5層　焼土ブロック主体層。白色粘質土が混じる。
6層　焼土粒主体層。
7層　赤褐色層　焼土粒と灰が混じる。
8層　褐色土　焼土粒が混じる。
9層　褐色土　焼土粒とローム粒が混じる。
10層　にぶい褐色土　焼土粒とローム粒が混じる。
11層　青灰層　焼土粒を含む。
12層　暗褐色土　焼土ブロックとロームブロックを含む。



第10図　３Ｂ号竪穴住居跡

【形状・規模】平面形態は隅丸長方形を呈し、東西3.9m、南北5.1m、床面積は21.5㎡である。

【床面・柱穴・貯蔵穴】確認面から約50cm下で床面となる。住居中央部は非常に固い床面が検出されているが、南側は３Ａ号竪穴住居跡の床下施設が多数重複する。壁は直に立ち上がるが、北壁は中段から外側に開く。壁周溝は北東、南西で検出されたが、浅く不明瞭である。貯蔵穴は南東隅で検出された。深さは68cmを測り、南壁の外側に張り出している。また、南西隅で深さ40cmの小土坑が検出された。

【竈】東壁の南寄りに付設されている。ローム粘土により構築されているが、袖は残存していない。燃焼部は壁内で、煙道が壁外に長く伸びる。

【出土遺物】明瞭に本住居跡に伴うと思われる遺物は出土していない。

【所見】出土遺物がなく、本住居の時期は不詳である。

第11図　３Ｃ・３Ｄ号竪穴住居跡

４号竪穴住居跡

【位置】９―17グリッドから８―17グリッドを主体に位置する。

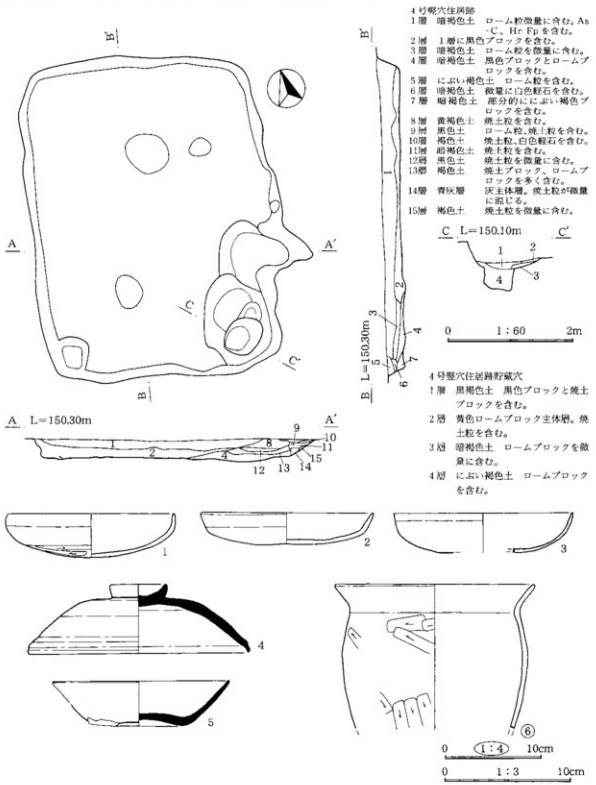
【形状・規模】平面形態は長方形を呈し、東西3.7m、南北5.1m、床面積16.0㎡を測る。

【床面・柱穴・貯蔵穴】確認面から約35cm下で床面となる。床面の中央部は非常に固く締まっており、数枚の床面が認められる。柱穴、壁周溝は検出されなかった。貯蔵穴は南東隅に付設されている。

【竈】東壁の南寄りに付設する。燃焼部の大半は壁内に位置し、短い煙道が壁外に伸びる。燃焼部の右側にはローム粘土が残存し、左側には石抜き穴が検出されている。

【出土遺物】土師器坏、甕、須恵器坏、蓋が出土している。

【所見】出土した遺物から本住居跡は８世紀中頃に位置付けられる。



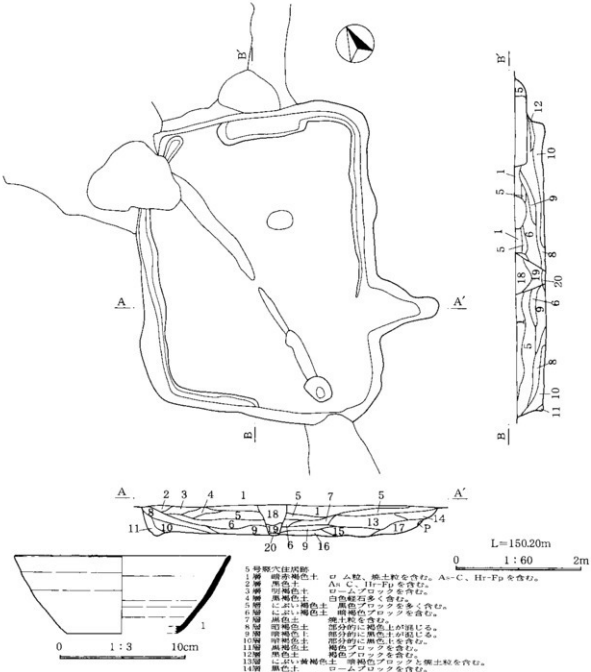
第12図　４号竪穴住居跡及び出土遺物

5号竪穴住居跡

【位置】8—18グリッドから7—18グリッドにかけて位置する。1号遺構、2～4号溝が重複しており、いずれも本住居跡よりも新しい。

【形状・規模】平面形態は台形状の隅丸方形を呈し、東西3.7m、南北約5.0m、床面積15.2㎡を測る。

【床面・柱穴・貯蔵穴】確認面から約40cm下で床面となる。床面は縁辺を除き、ほぼ全面が固く締まっている。壁周溝は南東部を除いて巡るが、浅く不明瞭である。柱穴、貯蔵穴は検出されていないが、南東隅寄りに3号溝と重複して検出された小ピットは本跡に伴う可能性がある。



第13図　5号竪穴住居跡及び出土遺物

【竈】東壁の南寄りに付設する。燃焼部は壁外に位置しており煙道の先端にはローム粘土が残存している。

【出土遺物】長胴甕の小破片が多く出土している。

【所見】復元遺物が少ないため判然としないが、7世紀中頃であろうか。

6号竪穴住居跡

【位置】調査区南端、8－16グリッドから7－16グリッドを主体に位置する。

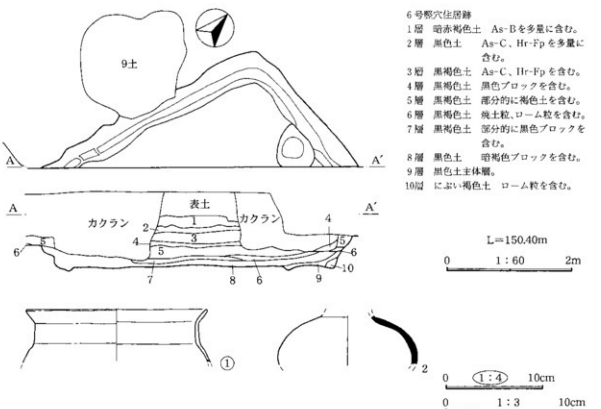
【形状・規模】調査区の関係から北西部のみの調査であり、残りは保存されている。調査した範囲内で、東西2.4m、南北3.9mの範囲内を調査した。平面形状、規模ともに不明である。東壁で9号土坑と重複し本住居とのほうが古い。

【床面・柱穴・貯蔵穴】調査範囲内では壁周溝が全周する。北東に深さ24cmの浅い掘り込みが確認されたが、本住居跡に伴うものかは不明である。

【竈】調査範囲内では検出されなかった。

【出土遺物】小破片が多く出土している。

【所見】出土した遺物から本住居跡は9世紀中頃に位置付けられる。



6号竪穴住居跡
1層　暗赤褐色土　As-Bを多量に含む。
2層　黒色土　As-C、Hr-Fpを多量に含む。
3層　黒褐色土　As-C、Hr-Fpを含む。
4層　黒褐色土　黒色ブロックを含む。
5層　黒褐色土　部分的に褐色土を含む。
6層　黒褐色土　焼土粒、ローム粒を含む。
7層　黒褐色土　部分的に黒色ブロックを含む。
8層　黒色土　暗褐色ブロックを含む。
9層　黒色土主体層。
10層　にぶい褐色土　ローム粒を含む。

第14図　6号竪穴住居跡及び出土遺物

7号竪穴住居跡

【位置】調査区南端、7－17グリッドを主体に位置する。

【形状・規模】調査区の関係から、北東部にあたる東西3.6m、南北2.8mの範囲を調査した。平面形状、規模ともに不明である。

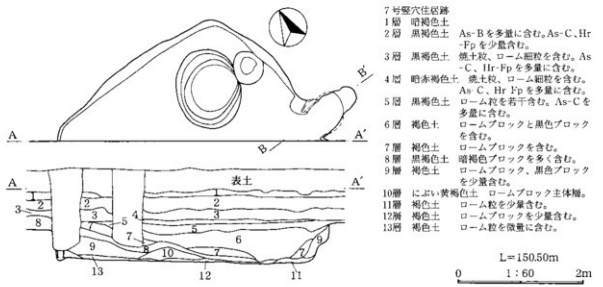
【床面・柱穴・貯蔵穴】確認面から約60cm下で床面となる。床面は竈前面を除くと軟弱である。中央部の床

面上にローム粘土が多量に堆積するが性格は不明である。北東隅寄りに２基の土坑が検出されているが、本跡との明瞭な関係や性格は不明である。

【竈】東壁に付設する。燃焼部は壁外に位置しており、煙道は急角度で立ち上がる。燃焼部の両側にはローム粘土が貼られており、焚口の左に袖石が残存する。

【出土遺物】長胴甕の小破片のみが出土している。

【所見】出土遺物が少なく、本住居の時期は不詳である。



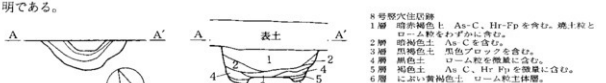
7号竪穴住居跡
1層　暗褐色土
2層　黒褐色土　As-B を多量に含む。As-C、Hr-Fp を少量含む。
3層　黒褐色土　焼土粒、ローム細粒を含む。As-C、Hr-Fp を多量に含む。
4層　暗赤褐色土　焼土粒、ローム細粒を含む。As C、Hr Fp を多量に含む。
5層　黒褐色土　ローム粒を若干含む。As-C を多量に含む。
6層　褐色土　ロームブロックと黒色ブロックを含む。
7層　褐色土　ロームブロックを含む。
8層　黒褐色土　暗褐色ブロックを多く含む。
9層　褐色土　ロームブロック、黒色ブロックを少量含む。
10層　にぶい黄褐色土　ロームブロック主体層。
11層　褐色土　ローム粒を少量含む。
12層　褐色土　ロームブロックを少量含む。
13層　褐色土　ローム粒を微量に含む。

7号竪穴住居跡竈
1層　黒色土　　焼土粒、As C を含む。
2層　黒色土　　As-C を多く含む。
3層　黒色土　　Hr Fp を含む。
4層　黒褐色土　ローム粒少量、As-C、Hr-Fp を含む。
5層　にぶい褐色土　ロームブロック多く含む。
6層　黄色土　　下面は焼土化。
7層　にぶい褐色土　ロームブロック少量含む。
8層　黒色土　　焼土ブロックを含む。
9層　青灰層　　灰層。焼土粒が多く混じる。

第15図　７号竪穴住居跡

８号竪穴住居跡

調査区南西、８―14グリッドに位置する。北東隅のごく一部の調査であるため、形状や規模、時期等は不明である。



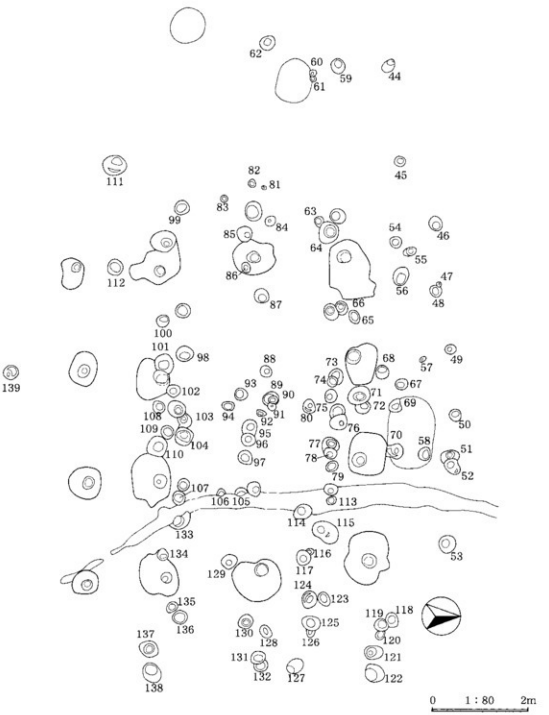
８号竪穴住居跡
1層　暗赤褐色土　As-C、Hr-Fp を含む。焼土粒とローム粒をわずかに含む。
2層　暗褐色土　As C を含む。
3層　黒褐色土　黒色ブロックを含む。
4層　黒色土　　ローム粒を微量に含む。
5層　褐色土　　As C、Hr Fp を微量に含む。
6層　にぶい黄褐色土　ローム粒主体層。

第16図　８号竪穴住居跡

(2)　掘立柱建物跡

1号掘立柱建物跡

【位置】調査区中央、10—16グリッドから10—17グリッドを中心に位置する。2棟の掘立柱建物跡が確認されたが、まだ数棟の建物が重複していると思われる。

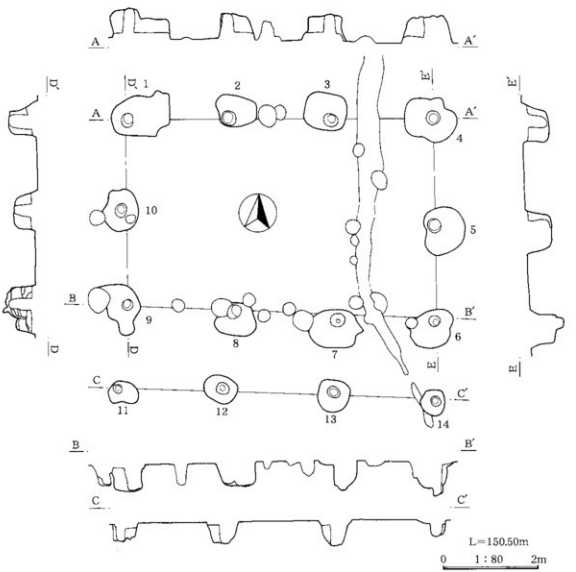


第17図　1号掘立柱建物跡周辺柱穴

1Ａ号掘立柱建物跡

【形状・規模】東西３間×南北２間で、南面に庇が付く。規模は柱穴の柱痕部の芯々で東西約6.4m、南北4.2mを測るが、西辺は約3.9mとかなりの歪みがある。身舎部の柱穴の掘り方は隅丸長方形、楕円形等様々である。規模は長径で80cm～100cm前後である。柱痕の径は25cm前後を測り、深さは50cm前後のものが多い、庇部は、身舎部から約1.6mの距離にある。柱穴の掘り方の平面形状は円形が基調であるが、一定していない。深さも20cm～50cmと一定していない。

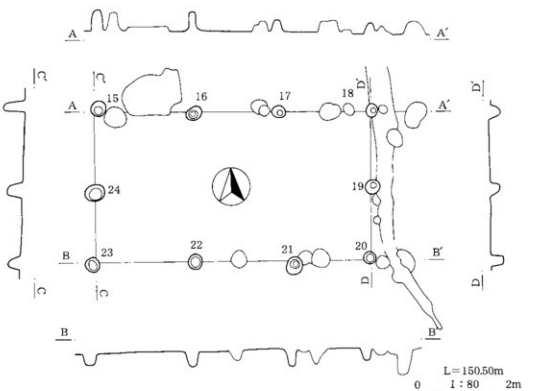
【所見】遺物は大半の柱穴から出土しているが、ほとんど土器の小破片であり、器形をうかがえるものはない。



第18図　１Ａ号掘立柱建物跡

1Ｂ号掘立柱建物跡

【形状・規模】東西３間×南北２間、規模は東西5.8m、南北3.3mを測り、比較的整った長方形を呈する。柱穴の平面形態は円形を基調とし、規模は長径で30cm～40cm前後であり、深さは30cm前後が多い。

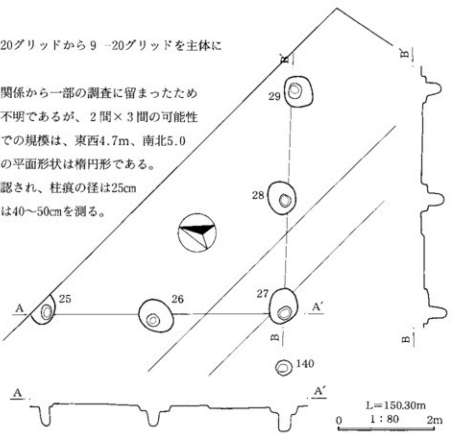


第19図　1Ｂ号掘立柱建物跡

２号掘立柱建物跡

【位置】調査区東、８―20グリッドから９―20グリッドを主体に位置する。

【形状・規模】調査区の関係から一部の調査に留まったため建物の構造、規模ともに不明であるが、２間×３間の可能性が高いと思われる。現状での規模は、東西4.7m、南北5.0mを測る。柱穴の掘り方の平面形状は楕円形である。全ての柱穴に柱痕部が確認され、柱痕の径は25cm前後のものが多く、深さは40～50cmを測る。

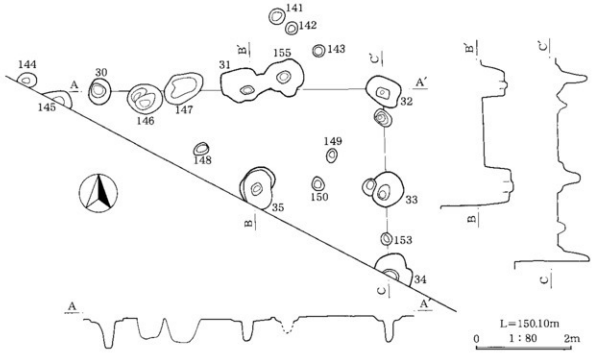


第20図　２号掘立柱建物跡

3号掘立柱建物跡

【位置】6－19グリッドから6－20グリッドを中心に位置する。

【形状・規模】2棟以上の建物が重複していると思われるが、調査区の関係から一部の調査に留まったため、柱穴の対応関係を明瞭に把握できなかった。

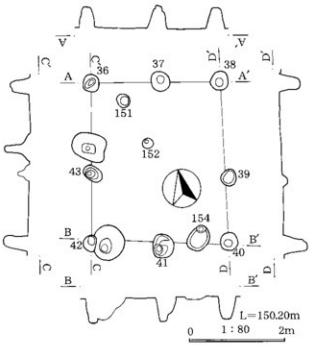


第21図　3号掘立柱建物跡

4号掘立柱建物跡

【位置】6－20グリッドを中心に位置する。

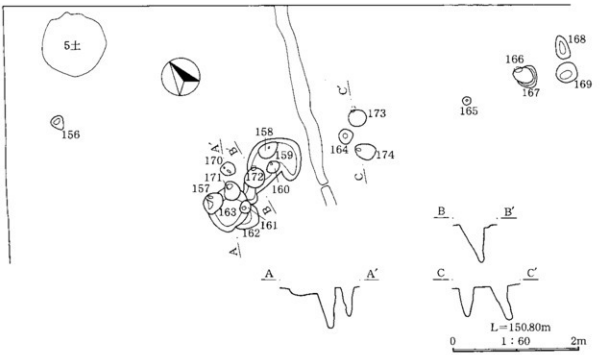
【形状・規模】建物構造は南北に長い2間×2間であり、規模は南辺で2.8m、東辺で3.4mを測る。柱穴の平面形状は円形がほとんどである。柱穴の規模は径30～45cm、深さは40～50cmであるが、南北辺の間柱は12、15cmとごく浅い。



第22図　4号掘立柱建物跡

北端柱穴群

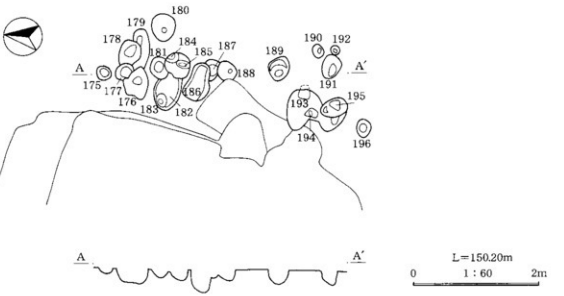
調査区北、1号溝で分断されるように検出された。ほぼ列状に位置しているが、掘り形や深さが一定していないため、柵列等の可能性は低いと思われる。



第23図　北端柱穴群

3号竪穴住居跡東側柱穴群

3号竪穴住居跡の東側でまとまりをもって検出された。1号掘立柱建物跡西辺で検出された柱穴の延長上に位置するため柵跡の可能性をもっている。

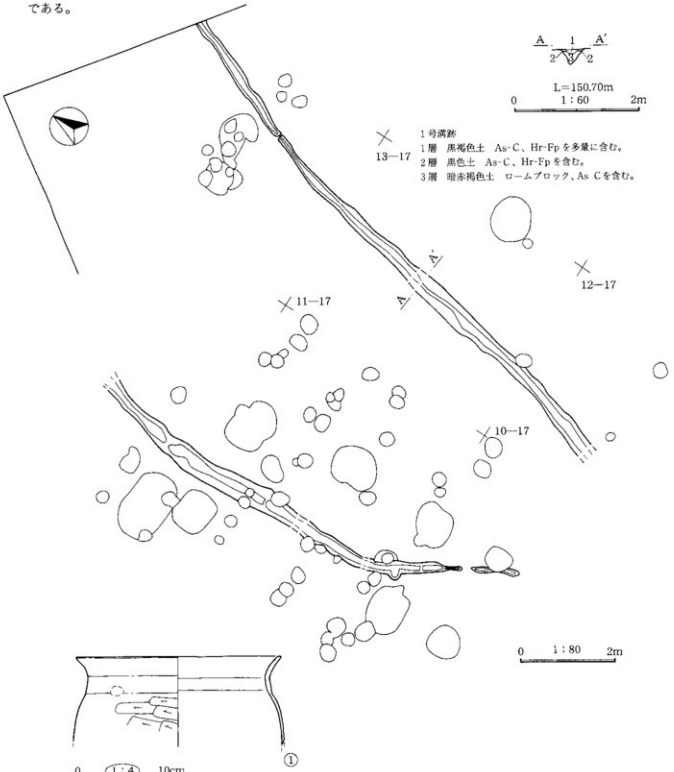


第24図　3号竪穴住居跡東側柱穴群

(3) 溝跡

1号溝跡

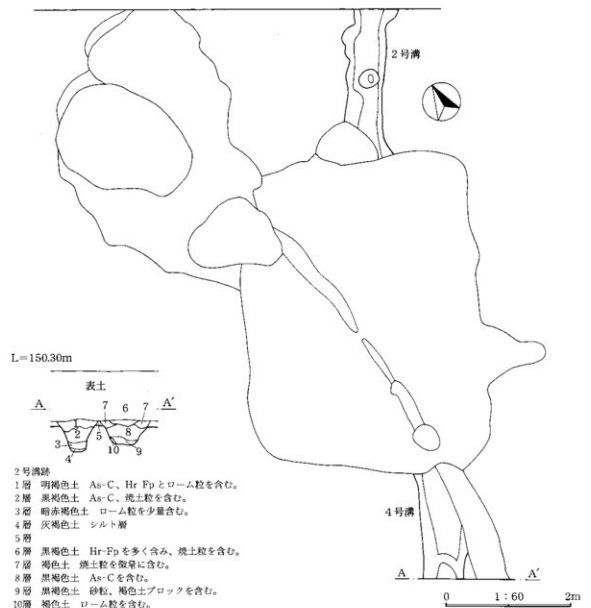
13—17グリッドから9—17グリッドに位置する。北から南に流下し、9—17グリッドで消滅するが、走向を見ると1号遺構へとつながる可能性も考えられる。検出面での幅が30cm前後、深さ20cm前後と小規模な溝である。



第25図 1号溝跡及び出土遺物

2号溝跡

9－18杭の東側に位置する。5号竪穴住居跡と重複し、本跡が古いと思われる。5号竪穴住居跡を挟んで南側に位置する4号溝につながると思われる。中央部に段があり、東側が若干深い。検出面での幅が60cm、深さ15cmを測る。



2号溝跡
1層　明褐色土　As-C、Hr Fpとローム粒を含む。
2層　黒褐色土　As-C、焼土粒を含む。
3層　暗赤褐色土　ローム粒を少量含む。
4層　灰褐色土　シルト層
5層
6層　黒褐色土　Hr-Fpを多く含み、焼土粒を含む。
7層　褐色土　焼土粒を微量に含む。
8層　黒褐色土　As-Cを含む。
9層　黒褐色土　砂粒、褐色土ブロックを含む。
10層　褐色土　ローム粒を含む。

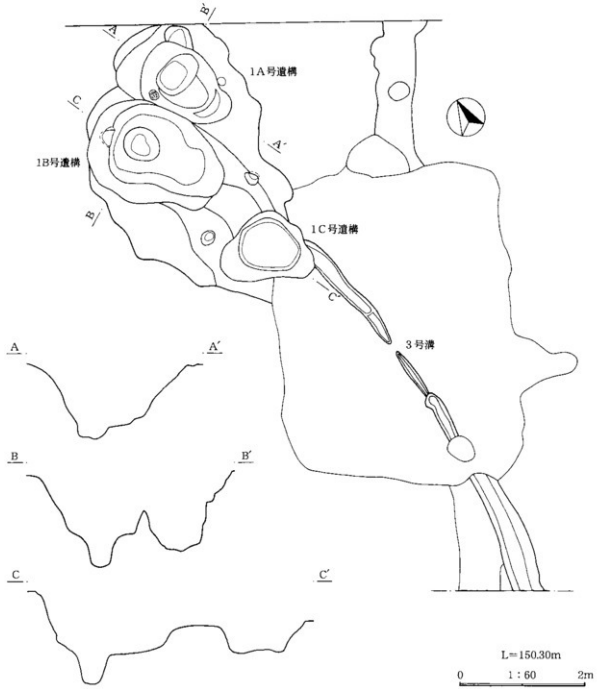
第26図　2号溝跡

3号溝跡

8－18グリッドから7－18グリッドに位置する。5号竪穴住居跡と重複し、本跡が新しい。検出面での幅、深さともに40cmを測る。

4号溝跡

7－18グリッドに位置する。5号竪穴住居跡、3号溝と重複し、本跡が古いと思われる。検出面での幅は約60cm、深さ約20cmを測る。2号溝と一連の可能性がある。



第27図　1号遺構

(4)　溜井

1号遺構

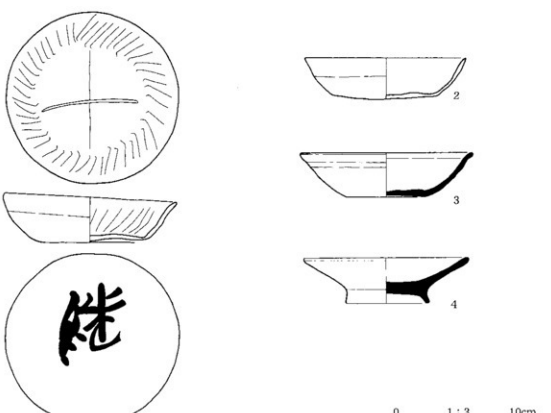
【位置】 9－18グリッドから8－18グリッドに位置する。当初は、平面プランから重複する3基の井戸あるいは土坑、及びそこから伸びる溝（3号溝）として精査を行った。なお、北側より1A号遺構、1B号遺構、1C号遺構の各名称を付した。長雨によりセクションベルトが崩壊し、セクション図を掲載できないが、調査中の所見及び遺構間の切り合い関係から、1A号遺構（新）→1B号遺構→1C号遺構（旧）と各遺構の新旧を判断した。

１Ａ号遺構は土坑状の掘り込みで楕円形状を呈する。多段に掘り込まれており、特に底面の最奥部がさらに深く掘り込まれている。長径約2.4m、短径1.6m以上を測る。また、最深部は約1.2mを測る。検出面直下から須恵器の皿１点、重なった状態で土師器の坏２点が出土している。上の土師器は底部外面に墨書で「継」、底部内面に「×」の刻書と体部内面に放射状の暗文が施文されている。

１Ｂ号遺構は１Ａ号遺構の西側に接して掘削されている。長径約2.4m、短径1.6mを測り１Ａ号遺構とほぼ同規模、同形状である。しかし最深部は約1.40mを測り１Ａ号遺構よりも深い。３号溝はほぼこの長軸の延長上に流下しており、１Ｂ号遺構に付随する可能性が高い。また、南端の東西両壁面に相対する位置に小ピットが検出されている。

１Ｃ号遺構は１Ｂ号遺構と３号溝の間を分断する形で検出された。長径約1.40m、短径約1.30mを測る楕円形であり、最深部まで約0.8mと１Ａ号遺構、１Ｂ号遺構とは規模及び形状が異なる。

１Ａ号遺構から出土した遺物により、本遺構は９世紀中葉には存在していたと思われる。



第28図　１号遺構出土遺物

第５章　成果と課題

時沢西高田遺跡からは竪穴住居跡７軒、掘立柱建物跡４棟、溜井３基、溝４条、土坑９基、柱穴多数が検出された。

竪穴住居は、７世紀中頃１軒、７世紀後伴１軒、８世紀中頃１軒、９世紀前半１軒、９世紀中頃２軒であり、ほぼ継続的に集落が営まれたようである。

１号掘立柱建物跡付近では数棟の重複が確認され、他の掘立柱建物跡と比べると、同一場所での建築思考が顕著である。構造的には１Ａ号掘立柱建物、１Ｂ号掘立柱建物はともに２間×３間で構成されているが、１Ａ号掘立柱建物は南側に庇が付く点で若干の変化が見られる。また、１Ａ号掘立柱建物の柱穴と１Ｂ号掘立柱建物の柱穴についても、前者は方形を基調とした大きめの掘り方であり、後者は円形を基調とした掘り方と差が見受けられる。このため、１Ａ号掘立柱建物、１Ｂ号掘立柱建物の機能は異なると予想される。

用水を確保するための溜井と用水を目的とする場所まで流す導水部から成る灌漑用の遺構として溜井遺構の存在が知られている。調査区からはこの溜井遺構に類する遺構として３基の溜井、導水部として１条の溝が検出された。溜井３基はほぼ近接した場所に構築されている。

１Ｂ号遺構の導水部には、東西両壁面に相対するように小ピットが検出された。仮に、堰等の存在が推測されるならば、取水だけでなく貯水としての機能も合わせて持っていたようである。１Ｃ遺構は楕円形状を呈し、１Ｂ遺構と３号溝を分断する形で検出された。形状及び規模ともに１Ａ号遺構・１Ｂ号遺構とは異なるため、溜井遺構としての性格が多少異なるのかもしれない。ところで、１Ａ号遺構からは須恵器の皿と重なった土師器２点が検出された。なお、上の土師器には底部外面に「廴」の墨書、体部内面に放射状の暗文、底部内面に刻書、及び暗文施文と同じ技法の２種が組合わさって「×」が施されており、他の墨書土器とは一線を画す土器である。墨書の文字と相まって考えると、湧水が継続的に湧き出る事を願っての祭祀行為と推測される。

これまでの発掘調査により、富士見村では平安時代になると急激に住居数が増加することが指摘できる。同様に、当遺跡から東方約2.5kmに位置する芳賀団地遺跡群についても９世紀以降飛躍的に住居数が増加していることが指摘されている。それまでは自然湧水でまかなえる範囲内の水田耕作、あるいは河川付近での水田耕作であったが、溜井遺構に代表される灌漑施設を設けることで、これまで未開であった地での水田耕作が可能となり、開発が及ばなかった地にも進出していったようである。

当地域においては火山噴出物の堆積が良好ではないためか、あるいは、もともと水田耕作が行われていなかったのか水田址は未検出である。今後は、周辺集落においての竪穴住居の増減を比較し、当地域に人口が増大していく背景を考察したい。

1 A号掘立柱建物跡

遺構番号	長径×短径（m）	残存深度	備　考
P－1	1.25×0.82	64cm	
P－2	0.91×0.73	50cm	
P－3	0.9×0.7	58cm	
P－4	1.1×0.78	38cm	
P－5	1.05×0.8	51cm	
P－6	0.96×0.75	69cm	
P－7	1.15×0.8	61cm	

遺構番号	長径×短径（m）	残存深度	備　考
P－8	0.85×0.7	51cm	
P－9	1.1×0.7	52cm	
P－10	0.87×0.64	47cm	
P－11	0.63×0.4	37cm	
P－12	0.7×0.55	43cm	
P－13	0.71×0.7	55cm	
P－14	0.6×0.5	24cm	

1 B号掘立柱建物跡

遺構番号	長径×短径（m）	残存深度	備　考
P－15	0.33×0.3	44cm	
P－16	0.36×0.27	38cm	
P－17	0.28×0.25	25cm	
P－18	0.28×0.25	23cm	
P－19	0.33×0.3	18cm	

遺構番号	長径×短径（m）	残存深度	備　考
P－20	0.29×0.25	25cm	
P－21	0.4×0.33	34cm	
P－22	0.35×0.32	30cm	
P－23	0.33×0.32	22cm	
P－24	0.43×0.35	33cm	

2 号掘立柱建物跡

遺構番号	長径×短径（m）	残存深度	備　考
P－25	0.65×(0.38)	46cm	
P－26	0.8×0.65	39cm	
P－27	0.75×0.6	49cm	

遺構番号	長径×短径（m）	残存深度	備　考
P－28	0.7×0.6	46cm	
P－29	0.72×0.65	40cm	

3 号掘立柱建物跡

遺構番号	長径×短径（m）	残存深度	備　考
P－30	0.54×0.46	53cm	
P－31	0.8×0.73	41cm	
P－32	0.7×0.54	68cm	

遺構番号	長径×短径（m）	残存深度	備　考
P－33	0.74×0.65	51cm	
P－34	0.83×(0.5)	47cm	
P－35	(0.8)×0.7	59cm	

4 号掘立柱建物跡

遺構番号	長径×短径（m）	残存深度	備　考
P－36	0.39×0.35	42cm	
P－37	0.42×0.4	49cm	
P－38	0.39×0.39	47cm	
P－39	0.36×0.32	12cm	

遺構番号	長径×短径（m）	残存深度	備　考
P－40	0.39×0.37	48cm	
P－41	0.5×0.45	52cm	
P－42	0.33×0.26	51cm	
P－43	0.43×0.3	25cm	

表1　時期不詳柱穴一覧

遺構番号	位置	平面形態	規模（m）	残存深度
P－44	10-15	楕円形	0.32×0.22	21cm
P－45	10-15	円　形	0.26×0.23	8 cm
P－46	11-16	楕円形	0.32×0.25	24cm
P－47	11 16	円　形	0.11×0.11	13cm
P－48	11-16	円　形	0.25×0.23	9 cm
P－49	11-16	円　形	0.23×0.21	7 cm
P－50	11-16	円　形	0.25×0.25	32cm
P－51	11-17		0.4×(0.2)	33cm
P－52	11-17	不整形	0.35×0.27	39cm
P－53	11-17	円　形	0.38×0.35	64cm
P－54	10-16	円　形	0.26×0.23	21cm
P－55	11-16	楕円形	0.3×0.18	11cm
P－56	10-16	楕円形	0.4×0.3	32cm
P－57	11-16	楕円形	0.16×(0.11)	4 cm
P－58	11-17	円　形	0.32×0.23	28cm
P－59	10-15	円　形	0.33×0.31	40cm
P－60	10-15	円　形	0.17×0.15	7 cm
P－61	10-15	円　形	0.13×(0.11)	3 cm
P－62	10-15	円　形	0.35×0.31	43cm
P－63	10-16	円　形	0.25×0.2	10cm
P－64	10-16	円　形	0.5×0.43	51cm
P－65	10-16	楕円形	0.29×0.22	7 cm
P－66	10-16	円　形	0.28×0.27	26cm
P－67	10-16	円　形	0.27×0.23	32cm
P－68	10 16	円　形	0.27×0.27	19cm
P－69	10-16	円　形	0.25×0.25	30cm
P－70	10-17	不整形	0.36×0.3	42cm
P－71	10-16	楕円形	0.45×0.35	42cm
P－72	10-16	円　形	0.23×(0.19)	22cm
P－73	10-16	楕円形	(0.36)×0.3	13cm
P－74	10 16	円　形	0.23×0.22	20cm
P－75	10-16	円　形	0.33×(0.29)	23cm
P－76	10-16	不整形	0.37×0.27	43cm
P－77	10-17		0.36×(0.21)	23cm
P－78	10-17	円　形	0.26×0.23	27cm
P－79	10-17	円　形	0.25×0.23	6 cm
P－80	10-16	円　形	0.3×0.25	30cm

遺構番号	位置	平面形態	規模（m）	残存深度
P－81	10-15	円　形	0.13×0.1	5 cm
P－82	10-15	楕円形	0.21×0.17	5 cm
P－83	10-16	円　形	0.24×0.23	14cm
P－84	10-16	円　形	0.27×0.24	18cm
P－85	10-16	円　形	0.32×0.3	20cm
P－86	10-16	円　形	0.24×0.18	21cm
P－87	10-16	円　形	0.33×0.31	29cm
P－88	10-16	円　形	0.26×0.23	27cm
P－89	10-16	楕円形	0.35×(0.25)	5 cm
P－90	10 16	楕円形	0.2×0.15	13cm
P－91	10-16	不整形	0.18×0.15	9 cm
P－92	10-16	不整形	0.22×0.11	4 cm
P－93	10-16	円　形	0.27×0.25	14cm
P－94	10-16	円　形	0.26×0.18	12cm
P－95	10-16		0.32×(0.25)	28cm
P－96	10-17	円　形	0.29×0.28	37cm
P－97	10-17	不整形	0.33×0.29	9 cm
P－98	10-16	円　形	0.38×0.33	20cm
P－99	9 16	不整形	0.59×0.45	59cm
P－100	9 16	円　形	0.27×0.26	44cm
P－101	9-16	円　形	0.43×0.38	42cm
P－102	10-16	円　形	0.27×0.27	13cm
P－103	10 16	不整形	(0.27)×0.26	11cm
P－104	10-16	円　形	0.4×0.4	31cm
P－105	10-17		0.3×(0.18)	3 cm
P－106	10-17		(0.18)×0.17	4 cm
P－107	10-17	円　形	0.31×0.29	12cm
P－108	9-16	円　形	0.3×0.27	18cm
P－109	10-16	円　形	0.29×0.28	12cm
P－110	9-17	不整形	0.45×0.38	34cm
P－111	9-15	円　形	0.49×0.43	41cm
P－112	9-16	円　形	0.33×0.33	30cm
P－113	10 17	円　形	0.18×0.18	16cm
P－114	10-17	不整形	0.4×0.32	29cm
P－115	10-17	不整形	0.61×0.38	38cm
P－116	10-17		0.16×(0.12)	6 cm
P－117	10-17	円　形	0.31×0.31	32cm

遺構番号	位置	平面形態	規模（m）	残存深度
P－118	10-17	楕円形	0.3×0.25	9 cm
P－119	10-17	円　形	0.32×0.3	39cm
P－120	10-17		0.18×(0.17)	9 cm
P－121	10-17	楕円形	0.39×0.3	21cm
P－122	10-17	不整形	0.43×0.35	50cm
P－123	10-17	楕円形	0.35×0.26	46cm
P－124	10-17	不整形	0.37×0.35	30cm
P－125	10-17	不整形	0.4×0.31	32cm
P－126	10-17		0.17×(0.14)	9 cm
P－127	10-17	不整形	0.37×0.3	36cm
P－128	10-17	楕円形	0.27×0.21	11cm
P－129	10-17	方　形	0.34×0.28	26cm
P－130	10-17	円　形	0.33×0.3	31cm
P－131	10-17	方　形	0.31×0.25	10cm
P－132	10-17		0.32×(0.18)	5 cm
P－133	10-17		0.48×(0.3)	55cm
P－134	9-17	円　形	0.26×0.24	34cm
P－135	10-17	方　形	0.22×0.2	5 cm
P－136	10-17	円　形	0.31×0.29	14cm
P－137	9-17	不整形	0.42×0.36	18cm
P－138	9 17	不整形	0.41×0.37	43cm
P－139	9-16	円　形	0.3×0.29	28cm

表2　東端柱穴群

遺構番号	位置	平面形態	規模（m）	残存深度
P－140	7-19	円　形	0.37×0.33	18cm
P－141	7-20	円　形	0.36×0.36	27cm
P－142	7-20	円　形	0.27×0.27	22cm
P－143	7-20	円　形	0.24×0.24	15cm
P－144	7-19		0.41×(0.28)	17cm
P－145	6-19		0.63×(0.26)	51cm
P－146	6-19	双円形	0.75×0.62	62cm
P－147	6-19	不整形	0.87×0.6	55cm
P－148	6-19	不整形	0.34×0.25	25cm
P－149	7-19	不整形	0.3×0.21	12cm
P－150	6-20	円　形	0.32×0.28	18cm
P－151	7-20	円　形	0.28×0.26	31cm
P－152	6-20	円　形	0.23×0.22	31cm
P－153	6-20	円　形	0.27×0.25	16cm
P－154	6-20	不整形	0.55×0.43	8 cm
P－155	7-20	不整形	0.8×0.8	56cm

表3　北端柱穴群

遺構番号	位置	平面形態	規模（m）	残存深度
P－156	14-17	不整形	0.22×0.21	9 cm
P－157	13-17	不整形	0.35×0.3	51cm
P－158	13-17	不整形	0.34×0.22	28cm
P－159	13-17	不整形	1.15×0.55	12cm
P－160	13-17	不整形	0.23×0.2	33cm
P－161	13-17	円　形	0.2×0.18	13cm
P－162	13-17		0.43×(0.21)	6 cm
P－163	13-17	方　形	0.65×0.6	14cm
P－164	13-17	円　形	0.23×0.23	13cm
P－165	13-18	円　形	0.14×0.13	5 cm
P－166	13-18	不整形	0.31×0.25	56cm
P－167	13-18		0.33×(0.1)	6 cm
P－168	13-18	不整形	0.38×0.2	7 cm
P－169	13-18	円　形	0.33×0.31	56cm
P－170	13 17	円　形	0.25×0.22	44cm
P－171	13-17	不整形	0.3×0.25	65cm
P－172	13-17	円　形	0.32×0.32	58cm
P－173	13-17	円　形	0.29×0.25	54cm
P－174	13-17	不整形	0.33×0.24	46cm

表４　３号竪穴住居跡東側柱穴群

遺構番号	位置	平面形態	規模（m）	残存深度
P－175	9－16	円　形	0.25×0.21	8cm
P－176	9－16	不整形	0.5×0.38	28cm
P－177	9－16		0.31×(0.22)	26cm
P－178	9－16	不整形	(0.35)×0.31	28cm
P－179	9　16	不整形	(0.58)×0.24	28cm
P－180	9－16	楕円形	0.43×0.37	36cm
P－181	9－16		0.35×(0.22)	16cm
P－182	9－16		(0.58)×0.42	5cm
P－183	9－16	楕円形	0.21×0.16	19cm
P－184	9－16	楕円形	0.22×0.16	19cm
P－185	9－16	楕円形	0.22×0.13	22cm
P－186	9－16	不整形	0.6×0.28	41cm
P－187	9－16		0.32×(0.13)	15cm
P－188	9－16	楕円形	0.32×0.28	18cm
P－189	8－16	不整形	0.4×0.33	23cm
P－190	8－16	円　形	0.22×0.2	18cm
P－191	8－16	楕円形	0.4×0.27	20cm
P－192	8－16	円　形	0.17×0.16	15cm
P－193	8　16	不整形	0.9×0.28	21cm
P－194	8－16	不整形	0.22×0.17	31cm
P－195	8　16	不整形	0.42×0.27	41cm
P－196	8－16	不整形	0.29×0.24	11cm

土器観察表

Ｈ－１号住居跡出土遺物　※（）は現存値を、［］は復元値を表す。数値の単位はcmである。

番号	器種	法量	①胎土②色調③焼成	文様、成・整形の特徴		備考
1	須恵器坏	口径 12.8 底径 6.5 器高 3.2	①白色鉱物、赤色粒子、砂礫 ②橙灰色2.5Y6/1 ③還元	外面	体部纏轤整形、底部右回転糸切り未調整。口唇部若干外反する。	口縁１/３欠。
				内面	轆轤整形。	
2	須恵器坏	口径[13.0] 底径［6.2］ 器高 3.5	①極小の白色粒子 ②灰黄色2.5Y6/2 ③還元焔、堅緻	外面	体部纏轤整形、底部右回転糸切り未調整、底部付近に横方向の削り。体部に墨位の「中」。	「中」の墨書。口縁から底部１/４残。
				内面	轆轤整形。緩やかに立ち上がる。	

Ｈ－２号住居跡出土遺物　※（）は現存値を、［］は復元値を表す。数値の単位はcmである。

番号	器種	法量	①胎土②色調③焼成	文様、成・整形の特徴		備考
1	土師器小型壺	口径[10.2] 底径［2.4］ 器高 6.0	①白色粒子、輝石 ②赤褐色5YR4/8 ③酸化焔	外面	口縁部は横撫で、体部は不明瞭であるが、箆削りか。	内外面煤付着。口縁から底部１/２残。
				内面	撫でによる調整。	
2	土師器坏	口径[14.6] 底径　— 器高 3.9	①白色粒子、輝石 ②明赤褐色2.5YR4/8 ③酸化焔	外面	口縁部横撫で。体部横方向を基調とした箆削り。	内面煤付着。口縁から底部１/５残。
				内面	横撫で。	
3	土師器坏	口径[11.0] 底径　— 器高 3.2	①輝石、石英 ②赤褐色2.5YR4/6 ③酸化焔	外面	口縁部は横撫で。体部箆削り。口唇部は緩やかに立ち上がる。	口縁から底部１/５残。
				内面	丁寧な横撫で。	
4	土師器坏	口径[16.0] 底径　— 器高 3.2	①赤色粒子、輝石、石英 ②明赤褐色2.5YR5/8 ③酸化焔	外面	口縁部は横撫で、緩やかな段を有す。体部は不明瞭な箆削り。	貯蔵穴出土。口縁から底部１/４残。
				内面	口縁部横撫で、体部付近は撫で。	
5	土師器坏	口径[12.0] 底径　— 器高 3.7	①白色軽石、輝石 ②暗赤褐色2.5YR3/6 ③酸化焔	外面	口縁部横撫で、口唇部は緩やかに内湾。体部は横方向を基調とした箆削り。	貯蔵穴出土。口縁から体部１/３残。
				内面	丁寧な横撫で。	
6	土師器坏	口径[15.8] 底径　— 器高 5.8	①白色粒子、輝石 ②明赤褐色2.5YR5/6 ③還元焔	外面	口縁部は横撫で、体部は横方向を基調とした箆削り。	電付近出土。口縁から底部１/３残。
				内面	丁寧な横撫で。	

番号	器種	法量	①胎土②色調③焼成	文様、成・整形の特徴	備考
7	須恵器蓋	摘み〔4.4〕 口径〔17.4〕 器高 3.5	①白色軽石 ②灰黄色2.5Y6/2 ③還元焔	環状摘みの中央部やや下がる。 外面 轆轤整形。天井部摘み付近篦削り。 内面 轆轤整形。	体部1/2残。
8	土師器甕	口径〔22.6〕 底径 — 器高〔7.8〕	①白色鉱物、石英 ②明赤褐色2.5YR5/8 ③酸化焔	口縁「く」の字状に外傾。外面 口縁部横撫で、体部上位は上方向の篦削り、中位は下方向の篦削り。内面 口縁部横撫で、体部篦撫で。	貯蔵穴出土。口縁から体部1/8残。
9	土師器甕	口径〔21.8〕 底径 — 器高〔21.2〕	①白色粒子、石英 ②赤橙色10R6/6 ③酸化焔	口縁「く」の字状に強く外傾。 外面 口縁部横撫で、体部不明瞭な篦削り。 内面 口縁部横撫で、体部篦撫でか。	口縁から体部中位1/5残。
10	土師器甕	口径 — 底径 2.4 器高(30.3)	①白色粒子 ②明赤褐色5YR5/6 ③酸化焔	口縁「く」の字状に緩やかに外反。体部中位で最大径となる。外面 口縁部横撫で、体部不明瞭な篦削り。内面 口縁部横撫で、体部篦撫で。	裡甕。口縁のみ欠。
11	土師器甕	口径〔23.8〕 底径 — 器高〔21.9〕	①白色粒子、輝石 ②明赤褐色2.5YR5/8 ③酸化焔	口縁「く」の字状に外傾。 外面 口縁部から頸部横撫で。体部斜位の篦削り。 内面 横方向の撫で。	口縁から体部中位1/6残。

H－3A号住居跡出土遺物 ※( )は現存値を、〔 〕は復元値を表す。数値の単位はcmである。

番号	器種	法量	①胎土②色調③焼成	文様、成・整形の特徴	備考
1	土師器坏	口径 11.6 底径 6.4 器高 3.6	①白色粒子 ②橙色5YR6/8 ③酸化焔	外面 体部に、型に押しつけた際のひび割れ痕、横方向の篦削り。 内面 丁寧な撫で。内面底部に爪痕か。	「型作り」。口縁から体部1/4欠。
2	土師器坏	口径 12.3 底径 8.2 器高 3.4	①白色軽石 ②明赤褐色2.5YR5/6 ③酸化焔	外面 体部に、型に押しつけた際のひび割れ痕、不明瞭な指頭圧痕。口縁部横撫で。 内面 横撫で、底部付近で不明瞭な指頭圧痕	「型作り」。完形。
3	土師器坏	口径〔12.2〕 底径〔7.0〕 器高 3.3	①白色軽石、輝石 ②極暗赤褐色2.5YR2/4 ③酸化焔	外面 体部に、型に押しつけた際のひび割れ痕、指頭圧痕。口縁部横撫で、不明瞭な篦削り。 内面 横撫で、底部付近で不明瞭な指頭圧痕。	「型作り」。口縁から体部1/4残。
4	須恵器坏	口径〔10.8〕 底径〔4.8〕 器高 2.3	①白色軽石、赤色粒子、輝石 ②灰黄色2.5Y6/2 ③還元焔	外面 体部轆轤整形、底部回転糸切り未調整。 内面 轆轤整形。	若干、風化。1/3残。
5	須恵器坏	口径 12.4 底径 6.2 器高 3.2	①白色粒子 ②浅黄色5Y7/3 ③酸化焔	外面 体部轆轤整形。底部回転糸切り未調整。 内面 轆轤整形。緩やかに立ち上がる。底部中央付近が若干窪む。	若干風化。口縁から体部1/8欠。
6	須恵器坏	口径〔13.2〕 底径〔6.0〕 器高 3.0	①石英 ②灰白色7.5Y7/2 ③酸化焔	外面 体部轆轤整形。底部は回転糸切り未調整。口唇部に弱い段をもつ。 内面 轆轤整形。	口縁から体部1/8残。
7	須恵器坏	口径〔12.6〕 底径 6.4 器高 3.5	①石英 ②青灰色5B4/1 ③酸化焔	体部に弱い屈曲をもつ。 外面 体部轆轤整形、底部は右回転糸切り未調整。 内面 轆轤整形。	貯蔵穴出土。口縁から底部5/1残。
8	須恵器坏	口径〔13.8〕 底径〔8.0〕 器高 4.0	①白色軽石、輝石 ②灰白色10Y7/1 ③酸化焔	外面 体部轆轤整形、底部は回転糸切り未調整。 内面 轆轤整形。	風化。口縁から底部1/8残。
9	須恵器坏	口径〔11.8〕 底径〔6.4〕 器高 3.9	①赤色粒子、石英 ②灰白色7.5Y7/1 ③酸化焔	体部に横方向の回転撫でによる弱い稜をもつ。 外面 体部轆轤整形、底部は回転糸切り未調整。 内面 轆轤整形。緩やかに立ち上がる。	口縁から底部1/5残。
10	須恵器椀	口径 — 底径 9.6 器高 (2.3)	①赤色鉱物、黒色粒子 ②灰白色 N8/1 ③還元焔	外面 体部轆轤整形、底部回転糸切り未調整。高台は高縁貼付時の回転撫で。 内面 轆轤整形。	底部完形。

番号	器種	法量	①胎土②色調③焼成	文様、成・整形の特徴	備考
11	須恵器 椀	口径 14.3 底径 7.0 器高 6.4	①多量の白色鉱物、極小の黒色粒子 ②暗青灰色5B3/1 ③還元焔	外面 体部轆轤整形、底部回転糸切り未調整。高台は薄く、両縁貼付時の回転無で。 内面 轆轤整形。	口縁から体部1/3残。
12	須恵器 椀	口径[14.3] 底径[8.4] 器高 6.1	①多量の赤色粒子、白色鉱物 ②赤灰色2.5YR6/1 ③還元焔	外面 体部轆轤整形、底部回転糸切り未調整。高台は薄く、両縁貼付時の丁寧な回転無で。 内面 轆轤整形。	口縁から底部1/2残。
13	須恵器 蓋	口径 14.3 底径 6.7 器高 2.2	①多量の赤色粒子、黒色粒子 ②灰色10Y6/1 ③還元焔	外面 体部轆轤整形、回転糸切り未調整。口縁端部は水平に引き出す。 内面 轆轤整形、口唇部に弱い稜を持つ。	完形。
14	灰釉陶器 皿(硯)	口径[11.6] 底径 6.8 器高 2.7	①極小の白色粒子 ②灰白色7.5Y7/1 ③還元焔、堅緻	外面 体部轆轤整形、高台両縁は貼付時の丁寧な撫で。底部は回転糸切りか。 内面 轆轤整形。中心部に研磨された痕跡	転用硯か。口縁1/6欠、人為的に破損か。
15	土師器 甕	口径[20.5] 底径 — 器高 (6.6)	①白色粒子、石英 ②明赤褐色2.5YR5/8 ③酸化焔	口縁部は弱い「コ」字状。口唇部に段をもつ。 外面 口縁部横撫で、体部荒削り。 内面 口縁部横撫で、体部荒撫でか。	口縁から体部1/8残。
16	土師器 甕	口径[16.8] 底径 — 器高 (8.4)	①砂礫、輝石 ②にぶい赤褐色2.5YR5/3 ③酸化焔	口縁部緩やかに外反する。 外面 口縁部横撫で。体部は斜位を基調とした荒削り。内面 口縁部横撫で。体部荒撫で。	口縁から体部1/3残。
17	土師器 甕	口径[21.8] 底径 — 器高 (7.3)	①白色軽石、輝石 ②暗赤褐色2.5YR3/6 ③酸化焔	口縁部は「コ」字状。 外面 口縁部から頸部は横撫で、体部は斜めを基調とした荒削り。内面 不明瞭な撫で。	口縁から体部1/8残。
18	土師器 甕	口径[20.3] 底径 — 器高 (8.2)	①白色軽石、輝石、赤色粒子 ②赤褐色2.5YR4/8 ③酸化焔	口縁部は弱い「コ」字状。外面 口縁部から頸部は横撫で、体部は横方向の荒削り。内面 口縁部は横撫で、体部は不明瞭な荒撫で。	口縁から体部1/3残。
19	土師器 甕	口径[20.8] 底径 — 器高 (10.4)	①赤色粒子、輝石 ②明赤褐色5YR5/6 ③酸化焔	口縁部は「コ」字状。外面 口縁部から頸部は横撫で、体部は斜めを基調とした荒削り。内面 口縁部は横撫で、体部は不明瞭な荒撫で。	口縁から体部1/6残。
20	土師器 甕	口径[20.4] 底径 — 器高 (12.8)	①赤色粒子、白色粒子、輝石 ②明赤褐色2.5YR5/8 ③酸化焔	口縁部は「コ」字状。外面 口唇部に段をもつ。口縁部から頸部横撫で。体部は荒削り。内面 口縁部横撫で。体部は不明瞭な荒撫で。	口縁から体部1/8残。
21	土師器 甕	口径[21.2] 底径 — 器高 (22.3)	①赤色粒子、白色軽石、輝石、石英 ②赤褐色2.5YR4/8 ③酸化焔	外面 口縁部から頸部は横撫で。体部は斜めを基調にした荒削り。口唇の屈曲部に顕著な輪積み痕。 内面 不明瞭な荒削り。	口縁から体部下位1/3残。
22	土師器 甕	口径[24.6] 底径 — 器高 (17.7)	①赤色粒子、白色軽石、輝石、石英 ②橙色2.5YR6/8 ③酸化焔	外面 口縁部から頸部は横撫で。体部は摩耗しているが、斜めを基調とした荒削り。 内面 荒削り後、横撫でか。	口縁から体部1/8残。

H－4号住居跡出土遺物 ※( )は現存値を、[ ]は復元値を表す。数値の単位はcmである。

番号	器種	法量	①胎土②色調③焼成	文様、成・整形の特徴	備考
1	土師器 坏	口径 13.0 底径 — 器高 3.5	①白色粒子、石英 ②橙色5YR6/8 ③酸化焔	外面 口唇部横撫で、体部は横方向を基調とした荒削り。 内面 横撫で。不明瞭な指頭圧痕。	口縁部から体部1/5欠。
2	土師器 坏	口径[13.6] 底径[12.1] 器高 2.5	①白色軽石、輝石 ②明赤褐色5YR5/8 ③酸化焔	外面 口唇部横撫で、不定形の荒削り。 内面 口縁部から体部にかけて丁寧な横撫で。	口縁部から底部1/5残
3	土師器 坏	口径[14.0] 底径 — 器高 3.1	①白色軽石、輝石 ②赤褐色2.5YR4/6 ③酸化焔	外面 体部に、型に押しつけた際のひび割れ痕、横方向の荒削り。口縁部横撫で。 内面 口縁部から体部にかけて丁寧な横撫で。	口縁部から底部1/6残。

番号	器種	法量	①胎土②色調③焼成	文様・成・整形の特徴	備考
4	須恵器蓋	摘み［4.4］ 口径［17.2］ 器高 5.4	①黒色粒子 ②青灰色5B5/1 ③還元焔	擬宝珠状摘み中央部やや盛り上がる。 外面 轆轤整形、摘み付近は回転篦削り。 内面 轆轤整形。	内面に重ね焼き痕。径8.8。 体部3/4欠。
5	須恵器椀	口径［13.8］ 底径 6.5 器高 3.7	①白色鉱物 ②灰白色 N7/1 ③還元焔	外面 体部轆轤整形。底部は回転糸切り未調整。底部は轆轤整形時に付け足したものか。 内面 轆轤整形。中心付近が盛り上がる。	口縁部から体部3/4欠。
6	土師器甕	口径［20.8］ 底径 — 器高（15.3）	①白色粒子、輝石 ②明赤褐色2.5YR5/8 ③酸化焔	外面 口縁部横撫で。体部上位は斜位、中位は縦位を基調とした篦削り。 内面 口縁部横撫で、体部不明瞭な篦撫で。	口縁から体部1/8残。

H－5号住居跡出土遺物　※（）は現存値を、［ ］は復元値を表す。数値の単位はcmである。

番号	器種	法量	①胎土②色調③焼成	文様・成・整形の特徴	備考
1	須恵器椀	口径［16.8］ 底径［4.7］ 器高 6.1	①細砂 ②灰白色10Y7/1 ③還元焔	外面 轆轤整形。 内面 轆轤整形。胎土は緻密で、丁寧な造り。	口縁から体部1/5残。

H－6号住居跡出土遺物　※（）は現存値を、［ ］は復元値を表す。数値の単位はcmである。

番号	器種	法量	①胎土②色調③焼成	文様・成・整形の特徴	備考
1	土師器甕	口径［18.8］ 底径 — 器高（5.4）	①白色粒子、輝石 ②赤褐色2.5YR4/8 ③酸化焔	口縁部は「コ」字状。 外面 口縁から頸部横撫で。体部篦削り。 内面 横撫で。	口縁から体部1/5残。
2	須恵器壺	口径 — 底径 — 器高（3.8）	①白色粒子 ②明青灰色5PB7/1 ③酸化焔	外面 轆轤整形。 内面 横撫で。頸部接合付近は丁寧な撫で。	体部1/3残。

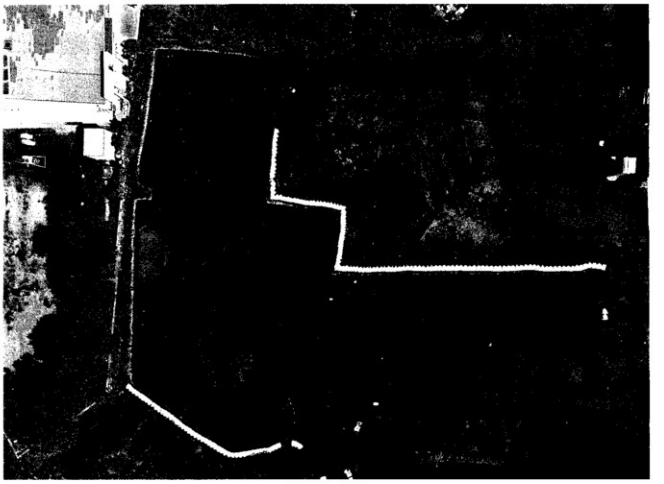
1号溝跡出土遺物　※（）は現存値を、［ ］は復元値を表す。数値の単位はcmである。

番号	器種	法量	①胎土②色調③焼成	文様・成・整形の特徴	備考
1	土師器甕	口径［21.4］ 底径 — 器高（9.0）	①白色軽石、輝石 ②暗赤褐色2.YR3/2 ③還元焔	外面 口縁部は弱い「コ」字状。頸部に指頭圧痕。体部は横方向を基調とした篦削り。 内面 不明瞭な篦撫で。	口縁から体部1/4残。

1号遺構出土遺物　※（）は現存値を、［ ］は復元値を表す。数値の単位はcmである。

番号	器種	法量	①胎土②色調③焼成	文様・成・整形の特徴	備考
1	土師器坏	口径 13.4 底径 8.8 器高 3.9	①白色粒子、石英、輝石 ②赤褐色2.5YR4/6 ③還元焔	外面 口縁部横方向の撫で。体部篦削り。底部篦削り、ひび割れ痕。 内面 体部横方向の撫で。底部不明瞭な指頭圧痕。	完形。暗文・「廠」の墨書。「型作り」か。
2	土師器坏	口径 12.6 底径 8.2 器高 3.3	①白色粒子、輝石、小礫 ②暗褐色7.5YR3/3 ③還元焔	外面 口縁部は横方向の篦撫で。底部は篦削り。 内面 口縁部から体部は横撫で。体部に不明瞭な指頭圧痕。底部の中心は若干窪む。	完形。「型作り」か。
3	須恵器坏	口径［13.6］ 底径［6.4］ 器高 3.4	①白色粒子 ②灰色 N5/ ③酸化焔	外面 体部轆轤整形。底部は回転糸切り未調整。口縁部は若干外反する。 内面 轆轤整形。	口縁から底部1/6残。
4	須恵器皿	口径 12.8 底径 6.2 器高 3.6	①白色軽石、砂礫 ②灰白 N6/ ③酸化焔	器肉やや厚手。外面 体部轆轤整形。底部は回転糸切り未調整。高台周縁貼り付け時の同転撫で。 内面 轆轤整形。	完形

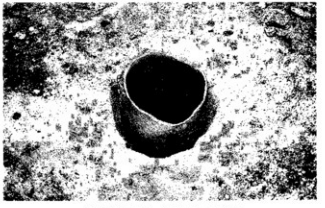
写　真　図　版



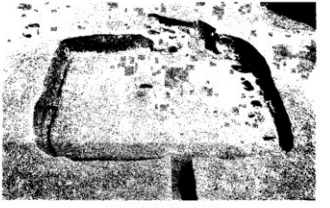
調査区　全景

1号住居跡　全景

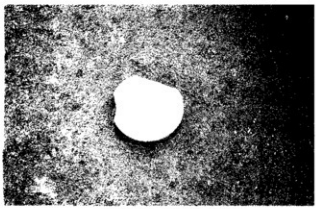
2号住居跡　全景



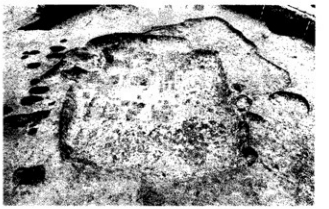
2号住居跡　遺物出土状況



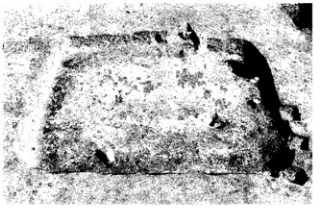
3A号住居跡　全景



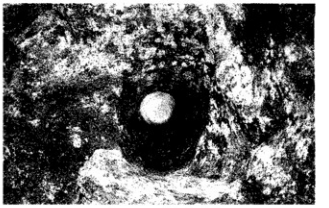
3A号住居跡　遺物出土状況



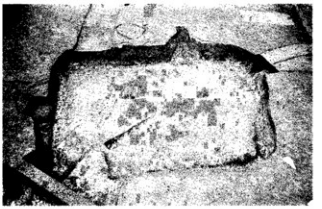
3A・B・C号住居跡　全景



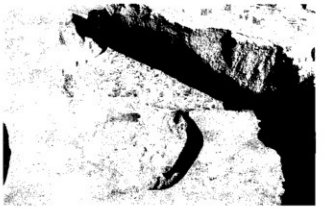
4号住居跡　全景



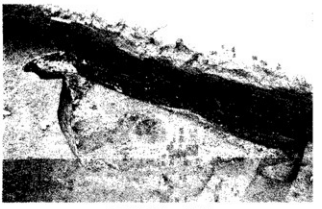
4号住居跡　遺物出土状況



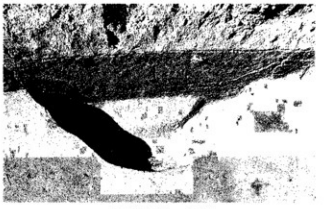
5号住居跡　全景



6号住居跡　全景



7号住居跡　全景



8号住居跡　全景

1号掘立柱　建物

2号掘立柱　建物

3号掘立柱　建物

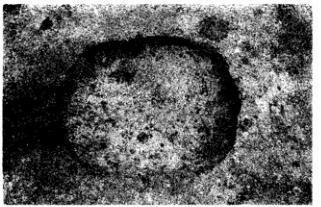
4号掘立柱　建物

1号溝　全景

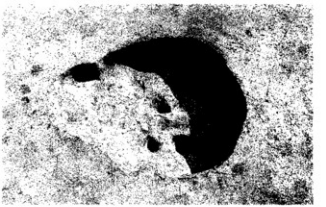
1号遺構（西から）

1号遺構（北から）

1号遺構　遺物出土状況



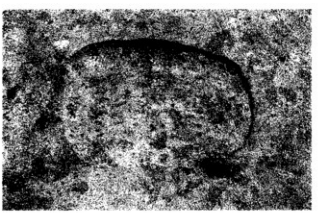
1号土坑　全景



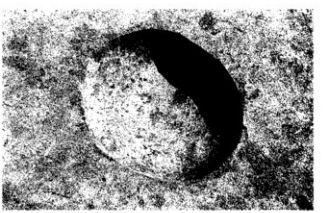
2号土坑　全景

4号土坑　全景

5号土坑　全景

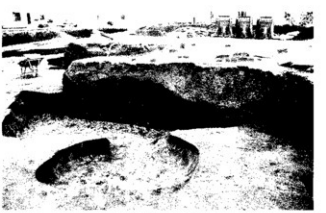


6号土坑　全景



7号土坑　全景

8号土坑　全景



9号土坑　全景

1住－1

1住－2

2住－1

2住－6

2住－7

2住－9

2住－10

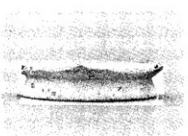
2住－11

3A住－1

3A住－2

3A住－5

3A住－7



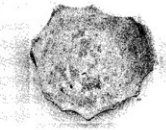
3A住－10

3A住－11

3A住－12

3A住－13

3A住－14



3A住－14

3A住－20

3A住－21

3A住－22

4住－1

4住－4

4住－6

4住－5

4住－5

6住－2

1道構－1

1道構－2

1道構－4

抄　録

ふりがな	ときざわにしたかだいせき
書名	時沢西高田遺跡
副書名	宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	福田貴之
編集機関	富士見村教育委員会
所在地	〒371-0114　群馬県勢多郡富士見村大字田島866-1
発行年月日	2004年3月26日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査面積
ときざわにしたかだいせき 時沢西高田遺跡	ぐんまけんせたぐん 群馬県勢多郡 ふじみむらおおあざときざわ 富士見村大字時沢			36° 25′ 02″	139° 05′ 12″	19980820 ～ 19981012	645㎡	宅地造成

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
時沢西高田遺跡	集落	古墳時代後期 奈良・平安時代	竪穴住居 竪穴住居・掘立柱建物・柱穴・溜井・溝	土器 土器	溜井遺構から放射状暗文と墨書を有する土器が出土。

時沢西高田遺跡
宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

平成16年3月23日印刷
平成16年3月26日発行

編集・発行／群馬県勢多郡富士見村教育委員会
群馬県勢多郡富士見村大字田島866-1
電話 (027) 288－6111

印　　刷／朝日印刷工業株式会社